

クイズ 4 一番古い畳堤はどこ？



ヒント!
 畳堤は全国に3ヶ所残っています。延岡市の資料は、昭和18年の大水害と、昭和20年の空襲で、ほとんど無くなりました。長良川には昭和11年に、揖保川には昭和25年～30年に造られています。

たたみ てい 畳堤の詩
 作詞・作曲・ピアノ・歌 桃木まほ

1. 静かな 時の中で せせらぎだけが 耳にのこる
 夕日の 少し 手前で 鮎つり舟が ゆれている
 昔の人は たぶん 川によりそい 生きるために
 それぞれの 願い 集めて ひとつ ひとつ 作ったんだね
 いくつもの 出会いと 別れを 見つめてきた
 昔と今を つないでいるもの 多分 そこに あるんだね

※ 今でも 変わらぬ あの風景が
 ゆるやかに おだやかに 時を刻んでいく
 五ヶ瀬の 河原の 畳堤を さあ ながめて 帰ろう

2. 大人に なろうとして 心のおくに カギをかけた
 行きかう 人の中に ほくのカゲが すいこまれた
 早足で すぎていく 日々に とりのこされた
 ほくが こうして 笑えてるのは 帰る場所があるから
 遠くて 聞こえる やわらかい声
 なつかしい あの人が 手をふりつづける
 五ヶ瀬の 河原の 畳堤に そう 座って かたろう
 お団子を ひとつ 口に ほおばって
 ランドセルを 投げ出して かけだして あの日をほく
 ※レポート
 あの日にかえろう

なぜ 謎の 畳堤

企画・監修 五ヶ瀬川の畳堤を守る会
 発行 国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所
 宮崎県延岡市大貫町1丁目2889番地
 tel : (0982)31-1191 Eメール:nobeoka@mlit.go.jp
 HP : http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/

平成20年4月発行

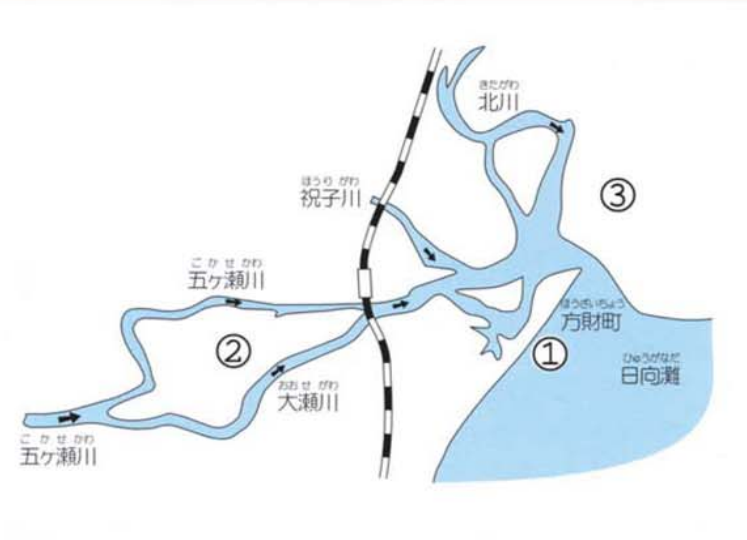
クイズ 3 畳堤が造られたのはいつ頃？

①江戸はじめごろ
 ②昭和はじめごろ
 ③平成はじめごろ

「畳堤」完成の様子

ヒント!
 畳堤がいつ頃造られたのかは、しばらく謎でした。あとになって見つかった昭和9年4月6日付けの「延岡新聞」の記事に、須崎橋完成記念の写実があり、そこに「畳堤」が写されていたため、いつ頃造られたのか分かりました。

クイズ 6 砂浜道路 (毛なし浜) とはどこ？



ヒント!
 延岡市は大瀬川、五ヶ瀬川、祝子川、北川の4つの川が合流して日向灘へ流れ込みます。大雨や台風になると、河口が小さいので、川の水が膨れ上がり、水位が上がって市街地は洪水の危険にさらされます。

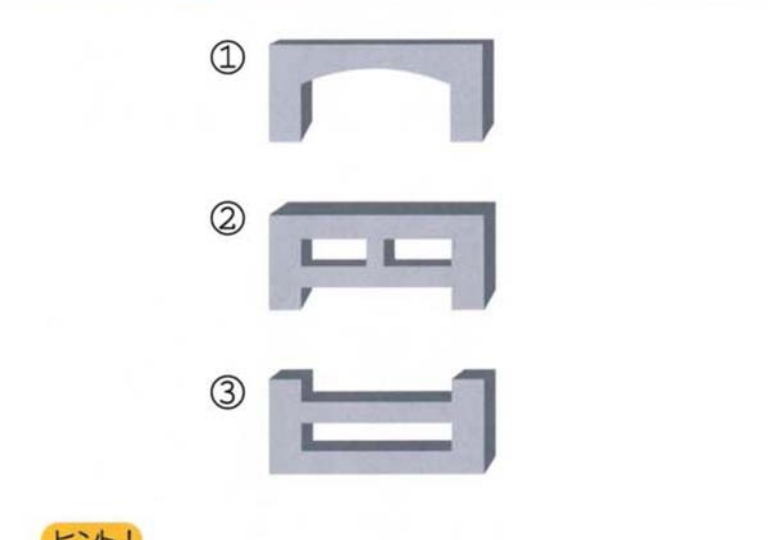
クイズ 1 畳堤ってなあに？

①堤防の前に畳をならべて洪水を防いだ
 ②堤防の隙間に畳をはめ込み洪水を防いだ
 ③堤防に畳をつみあげて洪水を防いだ

畳堤に畳を差し込む様子

ヒント!
 畳堤の高さは60cmあり、畳を横にしたときの約3分の2です。また、畳堤には7cmの隙間が空いていて当時の畳の厚みの約5cmに対して2cmの余裕があります。これは畳が水を含んだ時に畳のい草が膨らむためです。

クイズ 2 五ヶ瀬川の畳堤の正しい形はどれ？



ヒント!
 畳堤が造られた当時の五ヶ瀬川には、川沿いに船着場のある商家や料亭もあり、人々は川の風景や川風を楽しみながら生活していました。畳堤の形は、風通しや見晴らしを考えて景観をこわさないよう工夫したデザインになっています。

クイズ 5 なぜ堤防に畳が使われた？

①値段が安かったから
 ②子供でも運べるほど軽かったから
 ③どこの家にもあったから

ヒント!
 畳堤の畳は、洪水を防ぐために、住民自らが、我が家の畳を持ち出したものと考えられています。当時の五ヶ瀬川、大瀬川の両岸には、2,000メートルにわたる畳堤があり、約1,000枚の畳が使われていたそうです。

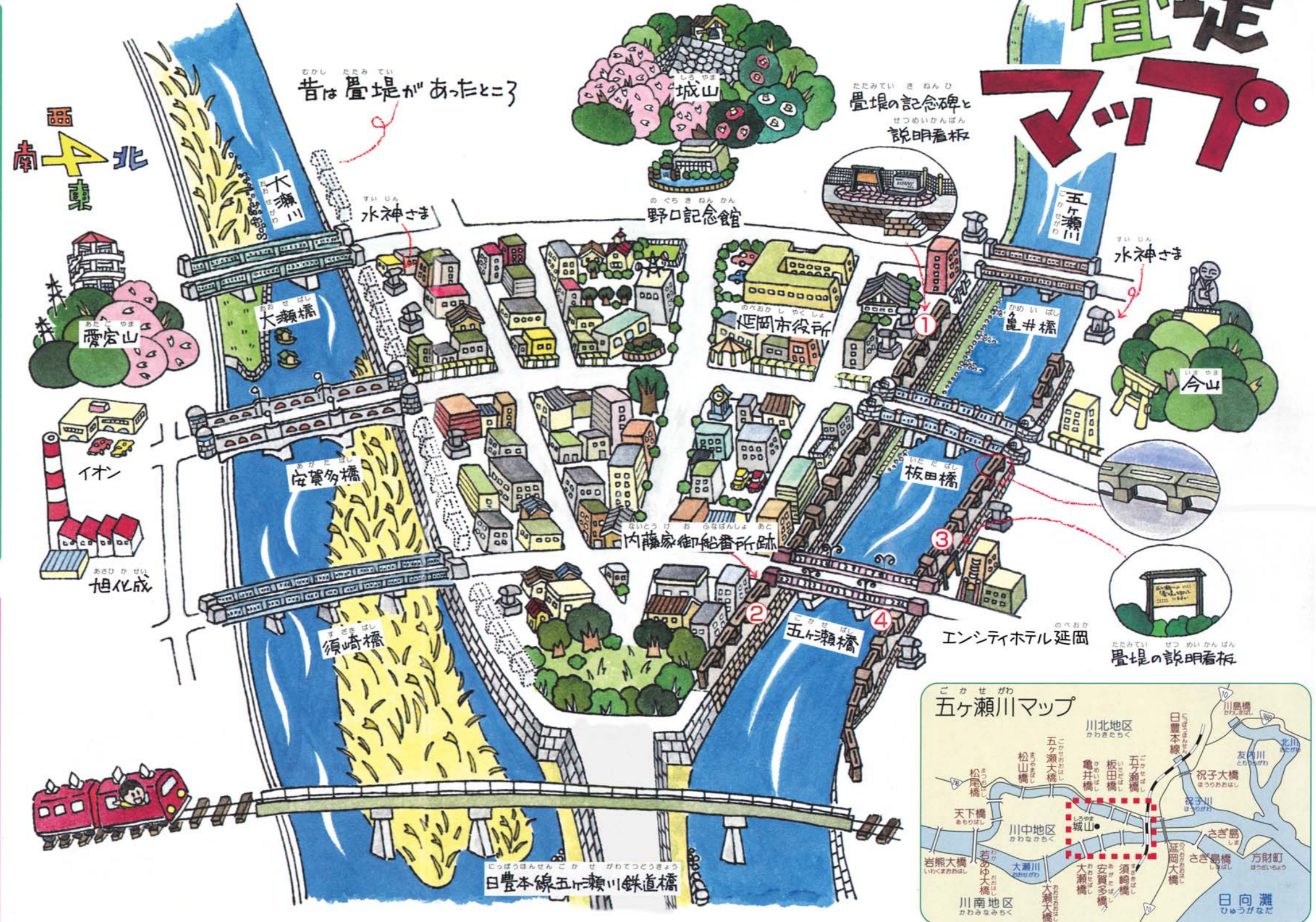
五ヶ瀬川の畳堤を眺めて帰ろう！

みなさんも「はてな？」と思ったことを調べると楽しくてびっくりすることがわかるかもしれません



たたみ てい

畳堤マップ



畳堤で町を守る

「畳堤」は、町のだ真ん中の川沿いに70数年以上も残っているが、ほとんどの住民から、由来や役割を忘れられていた堤防です。畳堤は、鉄筋入りのコンクリート製で、わかっているだけで五ヶ瀬川、大瀬川沿いに2,000メートルも造られていました。今では五ヶ瀬川の亀井橋下流沿いに、980メートルしか残っておらず大変貴重で、デザインにもすぐれた土木遺産です。畳堤は、家庭の畳を持ち寄り、洪水の被害をくい止めるために造られました。その形は、橋のらんかんのようにおおき型の空間があり、ふだんは景色を見たり、川風を感じたりできます。しかし、いざ洪水となると畳堤のすき間に畳を差し込み洪水から町を守ることができます。このような昔の人たちの知恵と工夫から、自ら、あるいはお互いに助け合い、町を守ろうとした防災への心がまえや郷土の歴史、当時の文化を学ぶことができます。「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」は、忘れられていた畳堤を調べてよみがえらせ、昔の人の知恵を学び、現代に生かそうと活動しています。「楽しくて、ためになる」をモットーに、「防災フォーラム(集会)」をしたり、「畳でまちを守ったお話」の紙しばいをしたり、「畳堤の詩」のCDをつくったりして、畳堤の大切さをみんなに広めています。

知っているかな？ 毛なし浜のお話

昭和42年以前の大瀬川の河口は、方財町の砂浜道路(通称:毛なし浜)でふさがれていたんだ。そのため、台風が来ると、町は洪水の被害にあっていたんだよ。そこで、町の人たちは、洪水から町を守ろうと、毛なし浜を切って水道を作り、台風の度にあふれる川の水を海に流そうと考えたんだ。でも、方財町の人には、毛なし浜が市街地へ行く唯一の生活道路だったので、反対する人もいたけど、町を洪水から守るためにみんなで協力したんだね。洪水の恐れがある度に毛なし浜は開削され、消防組の人たちは機械がないから、スコップで砂を掘ってたんだ。それに、押寄せの川の水で流れないように、命づなをつけての危険な作業だったんだよ。昔の人たちは命がけで僕らの町を守ってくれたんだね。ところで、今の方財町には、さき島橋が架かり、毛なし浜を通らずに行き来できるんだ。河口も整備され、大雨や台風の時にも川の水が流れやすくなっているよ。



昭和42年以前の延岡市の様子



消防組による毛なし浜の開削



① 畳堤の記念碑



② 現代版畳堤



③ 畳堤の説明看板



④ 五ヶ瀬橋下流の畳堤



クイズの答え

- 1 問目・・・②
- 2 問目・・・①
- 3 問目・・・②
- 4 問目・・・③
- 5 問目・・・③
- 6 問目・・・①